

キャリア教育は、児童・生徒一人一人の体験と経験の積み重ねのうえに成り立ちます。学校だけが児童・生徒の体験や経験の場ではありません。ベースは家庭であり、応用は地域・社会であります。学校と地域・家庭がともに連携したキャリア教育が求められています。

以下に家庭でのキャリア教育や地域・社会によるキャリア教育の実践例を紹介していきます。

キャリア教育で子どもたちの未来づくり

学校と地域・家庭で育むキャリア教育(家庭編)



これまで、学校で行うキャリア教育として、「職場体験」や「社会見学」「職業講話」等の具体的な取り組みの様子を紹介してきました。キャリア教育のゴールは「子どもたちの主体的な自己実現」です。子どもたちが、自分らしい学び方や働き方、さらには生き方を考え、自分の一生をどうデザインするかをイメージするキャリア教育が求められています。そう考えると、子育ての中にこそキャリア教育のベースがあります。以下の3つの視点で我が家の家庭教育を振り返ってみてはいかがでしょうか。昨今とくに、新型コロナウイルス感染症対策のために、親子で家庭にいる機会が増えています。この機会に、家庭でのキャリア教育を進めてみませんか。

いろんな仕事を知らせる

子どもたちは、自分が見たり聞いたりした仕事の中から将来つきたい仕事や将来設計を考えていきます。それでは、子どもたちはどのくらいの職業を見たり聞いたりしているでしょうか。

自分の親の仕事場での姿を知らない子がいるという話を聞きます。まずは、我が子に自分のしている仕事について語り、さらに、いろんな仕事と相互に支え合って社会全体ができていくことを知らせる、あるいは気づかせることが親子の関わりの中で必要ではないでしょうか。

働くことの意味を伝える

仕事に就くということの意味については、いろいろな考えがあります。親としては、「自分の得意なこと」「我が子の自己実現のため」という考えの方が多いでしょう。さらに、それに加えて、「社会の役に立つ」といった働くことの意味も伝えていく必要があります。

例えば、家庭で手伝い(役割分担)を決め、やり遂げたことをきちんと認めることで、自己肯定感・自己有用感を育てることができます。その感覚が、働く意欲や自己実現につながっていくのではないのでしょうか。

人とかかわる力を育む

将来、社会人となって仕事をしていく上で、非常に有利な力として「人とかかわる力」があげられます。

「人とかかわる力(コミュニケーション能力)」は、幼少期において親をはじめとする様々な人たちが愛情をもってかかわることによって、育まれるものであることがわかっています。

家庭も、人とのコミュニケーションの方法や内容を学ぶ場として重要な役目があることを意識し、まずは、家族でのあいさつや会話の機会を増やしていくことも大切なことではないでしょうか。

キャリア教育で子どもたちの未来づくり

学校と地域・家庭で育むキャリア教育(地域とのつながり)



キャリア教育は、特別な教育ではありません。豊後大野っ子が常日頃から様々な体験をし、多くの人と触れ合うことを通じて、自分らしい生き方について考え、目標を持って意欲的に行動する子どもの育成をめざす教育です。そのために、家庭は子どもたちのキャリア発達(自分らしい生き方を実現していく過程)を支え、自立を促す重要な場であり、地域はいわばキャリア発達のゆりかごです。学校でも、豊後大野っ子に多くの体験の機会や場が得られるよう、家庭や地域との連携・協力を図りながら様々な取り組みを行ってきました。



水田をお借りして、地域の方のご協力のもとで行う清川小5年生の稲作体験



老人クラブ連合会千歳町支部のご協力を得て行う千歳幼稚園児と千歳小5年生の合同稲作体験



地域の方の指導で行われた大野小5年生と大野中3年生の合同稲作体験(今年度は、小学校単独の予定)

昨今、豊後大野っ子にとって、豊後大野市の基幹産業である「農業」ですら体験する場や機会が少なくなっています。そこで、市内各小・中学校では、地域の方々のご協力を頂きながら、上記のような稲作体験をはじめとした農業体験や栽培活動を行っています。地域の方々の温かいご支援やご指導が、子どもたちのキャリア発達に大きな影響を与えてきています。心から感謝申し上げます。

また、豊後大野の空気や水・土・自然の恵みを肌で感じる経験を重ねていくことで、郷土の魅力に気づき、豊後大野で育つ自分に自信を持って自分の将来を設計し、意欲的に活動する豊後大野っ子の育成を目指しています。今後とも市民の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。